

～会に参加いただいた主な団体の紹介（1）～

宮坂忠昌 (みやざかただよし)
戸塚地区民生委員・児童委員協議会 会長

若者の力を借りて地域住民救済を！
民生委員は法律で秘守義務を課せられています。皆様から聞いたお話を漏らすことはありません。ということで行政や住民の皆さんからの貴重な情報を預かっています。要援護者の名簿等が代表的な情報の一つです。一人が700世帯前後を受け持ち妊産婦や幼児、児童の相談や、障がい者、生活困窮者、高齢者などの様々な問題に取り組んでいます。発災したときに上記の生活上の弱者を民生委員一人で救済することは不可能です。多くの団体の皆様や中学生、高校生又若者の力を借りて解決できるよう努めていきたいと思います。

山下 馨 (やましたかおる)
新宿NPO協働推進センター 施設長

いざという時に備えた地元NPOとの繋がりをつくりませんか？
新宿NPO協働推進センターでは、NPOなどの社会貢献活動団体個々の活動のほか、互いに連携、協働して、複雑な我が国の社会課題の解決を図っていくための活動も推進しています。その課題の一つに、大災害への備えや、発災後の、復旧・復興支援があり、昨年秋から様々なジャンルのNPO、NGOが集まり、災害復興支援プラットフォームの形成に向けた話し合いを進めています。専門家集団としてのNPOの活動ジャンルは、災害、福祉、まちづくりなど20あり、災害時には多面・多角的な支援活動が展開できます。いざという時に備え、普段からNPOとの繋がりをつくっておかれては如何でしょうか。

田中 真人 (たなかまこと)
日本赤十字社東京支部 事業部 救護課 救護課長

“生き残り、生き延びる”ための災害に関する意識・知識・技術の普及を行っています！
日本赤十字社は、災害時に医療救護を中心とする救護活動を展開します。そのための資機材を整備し職員、ボランティアに研修を積んでいます。しかし、発災後の応急対応で救える命には限りがあります。東京都支部では、発生が懸念されている首都直下地震で“生き残り、生き延びる”ためには、地域コミュニティでの「自助」「共助」「減災」の意識を高める必要があると考え、災害に備える意識・知識・技術の普及を目的に『赤十字減災セミナー、災害救護セミナー』を開催しています。これまで災害救護で赤十字が培ってきたノウハウをご活用ください。

合田 茂広 (あいたしげひろ)
ピースボート災害ボランティアセンター

多世代・多国籍なボランティアが災害時協力します！
「地球一周の船旅」のポスターでご存知の方も多いと思いますが、ピースボートは国際交流を目的に活動する国際NGOです。約30年、ずっとこの戸塚地区に事務所を置いています。東日本大震災をきっかけに、新しく災害支援や防災・減災の取り組みを専門にするピースボート災害ボランティアセンターも設立しました。住まいはそれぞれですが、日中は好奇心旺盛や若いボランティアや多国籍のスタッフが集まっています。また、毎月ボランティアの研修も行っていて、災害時には声を掛け合っの復旧・復興に協力したいと思っています。

高橋 晋一郎 (たかはししんいちろう)
新宿小溝橋郵便局 局長

金融・物流のインフラを担う地域住民の拠り所！
災害時での地域における郵便局の役割と致しましては、災害後での復興支援として金融・物流のインフラを行うと共に地域住民の拠り所として郵便局を活用出来ればと思っています。東北での未曾有の大震災の際、郵便局は全国24,000のネットワークを活かし、局の復興には近隣県からの業務応援や、『防災士』の資格を持っている局長もおりますので、瓦礫の撤去や高齢者支援などを行った実績もあります。震災・災害など何も無い事が一番ですが、災害後はいち早く町の復興にお役に立てるよう頑張ります！

鳥山 千尋 (とりやまちひろ)
NPO復興まちづくり研究所 理事

阪神淡路大震災や東日本大震災の経験を戸塚の復興に活かしたい！
◆私たちのNPOは、阪神・淡路大震災の復興を支援した行政職員、研究者等による自主研究グループ「仮設市街地研究会」をもとに2年前に設立しました。高田馬場駅近くに小さな事務所を構え、主に①東北の被災地の復興支援、②首都圏での様々な防災・減災のまちづくり、に取り組んでいます。◆私自身は、杉並区役所で長い間、住民参加のまちづくりに携わっていました。大震災に備え、防災機能を持つ公園を整備したこともあります。そんな経験を活かし、いざというとき、戸塚地区の皆さんと力を合わせ、とくにまちの復興を考える際にお役に立てればと思っています。

鶴木 由美子 (つるきゆみこ)
認定NPO法人 難民支援協会

国籍関係なく地域住民全体で災害に強い地域を目指しましょう！
皆さん、こんにちは！新宿区四谷にある「認定NPO法人 難民支援協会(JAR)」の鶴木と申します。戸塚地域は以前住んでいたこともあり、とても思い入れがある地域です。また、難民など在外外国人の方が多く住んでいる地域でもあります。災害時などのためにも、皆さんと顔の見える関係となり、国籍関係なく地域住民全体で災害に強い地域を目指していくことが今後さらに大切になってくると思います。皆さんと地域の在住外国人の方々とのつなぎ役としてもお役に立てたらとても嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします！

参加の他団体
戸塚地区町会連合会 / 戸塚地区内の町会員の方々 / 戸塚地区内の商店会の方々 / 新宿区都市計画課 / 戸塚警察署 / 新宿消防署 / 歌舞伎町タウン・マネージメント / アジア防災センター / 共生懇 / 新宿区立障害者福祉センター / 新宿区社会福祉協議会 / 新宿区耐震補強推進協議会 / しんじゅく多文化共生プラザ / NPO スープの会 / 損保ジャパン CSR 部 / ダイバーシティ研究所 / 高田馬場シニア活動館 / 高田馬場二郵便局 / 東京青年会議所 新宿区委員会 / 東京山手まごころサービス / 戸塚高齢者総合相談センター / 西早稲田地域交流館 / 早稲田祭2013運営スタッフ / 早稲田大学 平山都夫記念ボランティアセンター (WAVOC) 早稲田レスキュー / 早稲田通り郵便局《順不同、敬称略》

企画・運営
戸塚地区災害支援復興ネットワークを考える会幹事会
早稲田大学佐藤滋研究室 早稲田大学都市・地域研究所

お問合せ
早稲田大学佐藤滋研究室 (事務局 山崎)
Tel. 03-5286-3285

戸塚地区 災害復興支援ネットワークを考える会 活動ニュース No.1

平成26年7月

災害時の戸塚地区住民のみなさまへの支援を考える会が開かれました！！



戸塚地区では、平成22年度より、地域・行政・大学の3者連携により地域の防災、復興に備えた活動が行われてきました。

昨年度は「顔の見える関係づくり」をキーワードに町会や地区協議会メンバーの他、地域の様々な団体・組織の方々が集まり、震災に備えて行えることについて議論しました。

第1回では、震災直後からその後6ヶ月までの時期、第2回では仮設生活の時期から本格的な復興が進む時期、と時期毎に課題と対応策を検討し議論しました。

詳しくは次頁以降をご参照ください！

～中心となって関わっていただいた方々のお話～

福本 弘 (ふくもとひろし)
戸塚地区町会連合会 会長

戸塚地区町会連合会として、平成24年度に災害支援ネットワークを考える会を立ち上げました。いつ起きるか分からない災害に対して、町会が一丸となって取り組むことの一つに情報の伝達と共有があるとおもいます。地域協働での関係機関すなわちネットワークでの事前の取り決めが、必要不可欠なことであると考えております。いざ災害時に対応かつ活動できる、町会としての防災組織をめざしてまいります。また今後の課題として、若い世代の方に参加を呼びかけ、防災意識にねづく努力をしていきます。

本多 誠 (ほんだまこと)
戸塚地区協議会 会長

私たちは平成22年度から3年間、新宿区・町会連合会・地区協議会三者共催による「協働復興模擬訓練」を、早稲田大学佐藤滋研究室の協力を得て実施多大の成果をあげることができました。この3年間の活動を通じて、混乱(パニック)の中では、いかに早くそして正確な情報を得るかが、生死を分けることになるかを痛感させられました。平時の情報の発信元である各行政機関が被災した場合を考えると、このネットワークづくりも優先課題の一つに数えられると考えます。情報を発信する側と受ける側双方の顔が見える関係、「困った時は、お互いさま」の関係を諸団体の皆様のご協力をいただき実りある活動にしたいと考えています。

稲川 訓子 (いながわくにこ)
新宿区 地域文化部 所長

戸塚地区災害復興支援ネットワークを考える会は、戸塚地区町会連合会と戸塚地区協議会が共同で立ち上げた、まさに、地域ぐるみの活動です。首都直下型地震に対する切実な危機感がある中で、その対策をより具体的なものにしていこうという取り組みは、とても重要で、意義深いものだと思っています。オール戸塚を目指して、地域の連携が強化されることにより、「いざ地震」という時には、地域の底力が発揮できるように、戸塚特別出張所も、危機管理課と連携し、皆様の取り組みをサポートしていきたいと考えています。

伊藤 衛 (いとうまもる)
新宿区耐震補強推進協議会 会長

新宿区耐震補強推進協議会は新宿区と共に立ち上げた協議会です。区内の耐震性の不足している建物を主として耐震化支援事業をすることを柱にしています。防災として事前の対策として生存率が上がり非常に効果的です。阪神大震災で倒壊し、家具の転倒、焼死など下敷きになった内の90%が15分以内に亡くなっています。行政や地域の方も助けようがありません。要援護者の救護も殆ど無理だし道には車が溢れ火災が出たら避難が難しいのが現実です。震災後にどうするかも大切ですが、一番大切なのは震災前ですよ。

阿部 俊彦 (あべとしひこ)
早稲田大学都市・地域研究所 客員主任研究員

阪神大震災の被災地では、事前から地域住民によるまちづくりの体制が整っていた地区では、比較的スムーズに復興が進んだと言われています。戸塚地区では、新宿区と本学都市・地域研究所との協働復興模擬訓練をきっかけに、地元のリーダーの方々との熱心な取り組みによって災害時のネットワークが構築されてきました。これをさらに強化し、戸塚地区が事前復興まちづくりの一つのモデルを示し、新宿区全体の首都直下地震発生後のレジリエンス(=復興力)が醸成されていくことが期待されます。

第1回準備会 平成25年7月24日

第1回準備会では、災害直後から1週間、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月の時間の流れの中で、何が課題となりどんな支援をしていけるかを各時期ごとに議論しました。

〈当日使った議題パネルの例〉

主な議題：避難と人命救助

6

- ・自助（それぞれが自らの命を守る）
朝5:00頃、どこに居ることが多いですか？
会社や住んでいる場所、その周辺の安全性は大丈夫ですか？
- ・共助（高齢者・障がい者・子ども・外国人等の災害弱者の支援の支援）
- ・初期消火
どのような支援が出来ますか？
日常的に関わりのある人々とのような助け合いが出来ますか？
- ・帰宅困難者
早期のため、比較的少ないことが想定されます。
→交通整理や情報の提供など、どのような支援が出来ますか？
- ・パニックへの対応
- ・その他
災害直後、個人としてどのような行動をとろうと思いますか？



〈議論の中で出た意見の例〉

■課題

- ・一人暮らしの安否確認を複数の組織が行うと二度手間。
- ・とりのりを助けるにも、けが人を運び出すのが大変…
- ・火事は5,6軒をまたいで火が燃え移ってくる。そのため想定を超えた被害がでるため、自分一人でさえも落ち着いて行動するのは難しい。

■アイデア

- ・確認した所には共通のシールを貼るなどの工夫を考える必要がある。
- ・近所で避難できるのは山手線の土手がある。自分もかつて災害があったときはそこに逃げた。そのように日頃から自分で逃げる場所を決めておき、有事の際にはそこに素早く逃げ込めることが必要である。

当日の流れ



①大きな地図を囲んで災害時に起こる様々な課題について議論しました。



②災害時の避難の状況を説明しています。様々な人が避難所にかけこみます。



③議論に熱が入ります。地域の安全は様々な方の居力の上に成り立ちます。



④最後に各班の発表です。課題は山積みですが、確かな一歩を踏み出しました。

第2回準備会 平成25年11月29日

第2回準備会では、仮設生活の時期から復興へとむかう流れの中で、どのような体制をくみ、まちとしてどのように生活を再建していくのかを議論しました。

〈当日使った議題パネルの例〉

仮設復興期 議題

1. 地域内の建物のみなし（借り上げ）仮設としての利用
2. みなし仮設で孤立している人のために
3. 郊外の仮設に住む人と地域のコミュニティ
4. 再建できずに長く仮設住宅に残ってしまう人びと
5. 仮設住宅の集会所の活用方法
6. 仮設での商業の再開
7. 仮設で生活する高齢者への支援
8. 日本に残って生活したい外国人への支援



〈議論の中で出た意見の例〉

■復興過程でのアイデア

- ・地区内の仮設住宅に高齢者が住めるようにしたい。
- ・広い道路に近い場所は物資面でも支援拠点として使いやすい。
- ・商店街が被災したら、そこに仮設商店街を作る。

■まちの将来像に関するアイデア

- ・若者向けのまちづくりが高齢者にとってもいい。それが地域の商店街の復興にもつながる。
- ・神社など歴史的なところは残してほしい。観光みたいなものもあるから。商店街ももっとセットバックして人が来るようにするとか。
- ・地域の中で循環して安心して暮らせるような再建の仕方がというの大事になってくるのかなと思います。

当日の流れ



①今回は震災後6ヶ月以降の段階、つまり復興の段階での支援について議論しました。



②旗に書かれた議題に沿って議論し、その議論に関係する場所へ旗を差していきます。



③後半は模型を変えて、区画整理や再開発、共同建替などを想定した議論となりました。



④たくさんの課題やアイデアは協力することで様々な可能性が見えてきます。

第3回準備会 平成26年2月14日

第1部では、災害支援を行う団体より、活動内容や災害時の支援について話題提供していただきました。第2部では、「震災復興の手引き※」を元に、今後に向けてどのようなことを考え、行っていくべきか、意見交換会を行いました。



〈第1部の講演内容〉

日本赤十字社東京都支部 事業部救護課 山下さん
〈首都直下地震の被害想定と減災意識の必要性〉

ピースボート災害ボランティアセンター 合田さん
〈神戸、石巻での経験から〉

認定NPO法人難民支援協会 中山さん
〈東日本大震災支援活動の経験から〉

しんじゅく多文化共生プラザ 大熊さん
〈地域の顔の見えるコミュニティづくりのために〉



〈第2部の様子〉

そして平成26年度は…!

事前準備【地域内の顔の見える関係性づくり】

町会防災部長やマンション・事業所の防火責任者の方々など、災害時に地域と協力して市民の安全を守っていただけるよう、顔の見える関係性をまず地域の中で作っていきます。平行して以下の2回の活動により戸塚災害支援ネットワークを強化します。



※平成25年度に活動した成果を「新宿区戸塚地区 震災復興の手引」としてまとめました。都や区が定めているマニュアルだけでなく、地域レベルで災害時どのようにアクションを起こすか、考えておく必要があります。



第1回【災害時に各団体が地域に貢献できそうなことは？】

開催時期：11月頃予定

昨年度にできたつながりを軸に、より具体的に各団体が支援出来るものが何かを考えていきます。各組織の得意なこと、出来ること、必要とすることなど、お互いのことをより理解することで、災害ネットワークの体制を強化します。



第2回【各団体の得意分野を活かした体制づくりにむけて】

開催時期：2月頃予定

第1回で整理された各団体の状況を踏まえて、災害時の協定を結ぶ為の議論を行っていきます。

大規模災害発生時 新宿区医師会からのお願い

多くの住民が一度に被災した場合、重傷者が優先的に適切な治療を受けられるよう皆様の協力が必要になります。傷病者が大病院に集中して受診すると病院の機能は停止してしまいます。怪我をしたらまずは地区の救護所に行ってトリアージ（緊急性と重症度から治療優先度の高い負傷者を選び出す作業）を受けて下さい。それによって治療が必要なら医療救護所（戸塚地区は西戸山中学校）か災害拠点病院（戸塚地区は東京山手メディカルセンター〔旧社会保険中央総合病院〕）に向かうよう指示されます。又慢性疾患で普段から治療を受けておられる人はお薬手帳を持参するように、そして日頃から余分の薬も用意するように心がけて下さい。地区の診療所の医師は原則として医療救護所に向かうことになっています。又在宅医療を受けている方々は個々の病状によって災害時に必要な対応が異なります。担当医師や行政機関等に予め確認しておきましょう。

災害発生時には交通機関が遮断されます。その際は被災から免れた方々のマンパワーによって重傷者の搬送が求められます。宜しくご協力お願いいたします。

地区防災担当医師 西北診療所 羽田野 隆